生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル記念イベント
Centenaire Jean-Pierre Melville

© DR

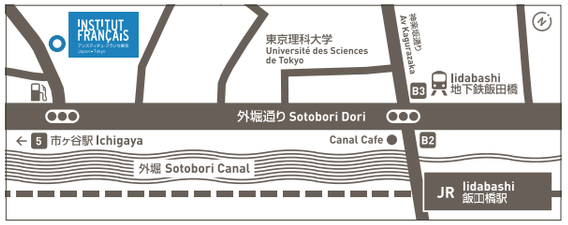
上映スケジュール CALENDRIER

11.4（土）	13:00	勝手にしやがれ À bout de souffle（89分）
	15:00	アスファルト・ジャングル Quand la ville dort（112分）
	17:30	蛇の道 Serpent's Path（85分）
11.5（日）	13:00	冷たい雨に撃て、約束の銃弾を Vengeance（109分）
	15:30	コードネームはメルヴィル Sous le nom de Melville（76分）
	17:30	シンポジウム Table ronde ＊入場無料 entrée gratuite（当日チケット販売時間内に整理券配布。販売時間については、下記をご参照ください）

プログラムはやむを得ぬ事情により変更されることがありますが予めご了承下さい。■入場料金：一般：1200円／学生：800円／会員：500円■開場：各回上映開始15分前■チケット販売時間：上映当日各回の30分前から上映開始10分後まで。チケット販売時間内には、当日すべての回のチケットをご購入いただけます。全席自由。整理番号順での入場とさせて頂きます。上映開始10分後の入場は、他のお客様へのご迷惑となりますので、固くお断りいたします

生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル記念イベント
主催：アンスティチュ・フランセ日本　共催：JSPS KAKENHI 15H03180　助成：アンスティチュ・フランセパリ本部
アンスティチュ・フランセ日本 映画プログラム オフィシャル・パートナー：CNC、笹川日仏財団、TV5 MONDE　フィルム提供及び協力：シネマヴェーラ渋谷、ファントム・フィルム、KADOKAWA、オンリーハーツ　協力：日本映画大学、早稲田大学、東京国際映画祭、東京国立近代美術館フィルムセンター
CENTENAIRE JEAN-PIERRE MELVILLE
Organisé par : l'Institut français du Japon et JSPS KAKENHI 15H03180 ; **Avec le soutien de :** Institut français ; **En partenariat avec :** CNC, Fondation Franco Japonaise Sasakawa, TV5 MONDE, Japan Institute of the Moving Image, Université Waseda ; **Merci à :** Cinema Vera Shibuya, Phantom Film, KADOKAWA, Only Heart

会場・お問い合わせ アンスティチュ・フランセ東京（旧・東京日仏学院）
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
☎03-5206-2500 | Fax.03-5206-2501
www.institutfrancais.jp/tokyo/



関連企画

生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美 展
Exposition Jean-Pierre Melville cinéaste du noir

2017年9月26日（火）～12月10日（日）
東京国立近代美術館フィルムセンター 展示室

主催 東京国立近代美術館フィルムセンター、ノクテュルヌ・プロデュクシオン

ジャン=ピエール・メルヴィル監督特集上映
Rétrospective Jean-Pierre Melville

2017年11月11日（土）～17日（金）
角川シネマ新宿

提供 アンスティチュ・フランセ日本、マーメイドフィルム
『いぬ』『影の軍隊』『仁義』ほか代表作を上映

生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル特集 in 横浜
Centenaire J-P Melville à Yokohama

2017年12月9日（土）
東京藝術大学馬車道校舎

上映予定作品：『仁義』、『コードネームはメルヴィル』（オリヴィエ・ボレール）
特別ゲスト：岡田秀則（東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員）

INSTITUT FRANÇAIS　CNC　TV5MONDE　ANA　科研費　日本映画大学 JAPAN INSTITUTE OF THE MOVING IMAGE

Centenaire Jean-Pierre Melville
生誕100年
ジャン=ピエール・メルヴィル記念イベント

JEAN-PIERRE MELVILLE CENTENNIAL

2017.11.4（土）/5（日）
les 4 et 5 novembre 2017

会場 アンスティチュ・フランセ東京（飯田橋）
à l'Institut français du Japon – Tokyo

国際シンポジウム
関連作品上映
Table ronde / projections

ゲスト Invités spéciaux
オリヴィエ・ボレール Olivier Bohler
黒沢清 Kiyoshi Kurosawa
ロジャー・ガルシア Roger Garcia
伊藤洋司 Yoji Ito
土田環 Tamaki Tsuchida

Liberté • Égalité • Fraternité RÉPUBLIQUE FRANÇAISE AMBASSADE DE FRANCE AU JAPON
INSTITUT FRANÇAIS アンスティチュ・フランセ東京 Japon • Tokyo
vivre les cultures

Centenaire Jean-Pierre Melville

生誕100年 ジャン=ピエール・メルヴィル記念イベント

国際シンポジウム
関連作品上映

ジャン=ピエール・メルヴィル（1917–1973）は、戦後、自由闊達な製作手法と、斬新なスタイルでフランス映画界に新風を吹き込み、その独特な美学、作風で、ヌーヴェル・ヴァーグの監督たちをはじめ、サム・ペキンパー、マーティン・スコセッシ、タランティーノ、ジョン・ウー、ジョニー・トー、ジム・ジャームッシュ、北野武ら、世界中の映画作家たちに多大なる影響を与えました。
アラン・ドロン、ジャン=ポール・ベルモンドら、フランスのスター男優たちのダンディズムを美しく映し出し、ハリウッドの古典的なギャング映画を通じて、フィルム・ノワールの確固たるスタイルを完成させたメルヴィルが今年、生誕100年を迎えるのを記念して、国際シンポジウムを開催します。またメルヴィルの関連作品の上映を行います。

2017.11.4（土） samedi 4 novembre 2017

[13:00-]

勝手にしやがれ
À bout de souffle

© StudioCanal

［フランス／**1960**年／**90**分／デジタルリマスター版／モノクロ／日本語字幕］
監督：ジャン=リュック・ゴダール
出演：ジャン=ポール・ベルモンド、ジーン・セバーグ、ジャン=ピエール・メルヴィル

警官を殺してパリに逃げてきた自動車泥棒のミシェルは、アメリカ人留学生パトリシアと恋に落ちる。パトリシアはミシェルの愛を確かめるために、彼の居場所を警察に伝え、そのことをミシェルにも教えるが…。ジャン=リュック・ゴダールの初長編監督作。即興演出や手持ちカメラでの街頭撮影など、当時の劇場映画の概念を打ち破る技法で製作され、後の映画界に大きな影響を与えた、ヌーヴェル・ヴァーグの記念碑的作品。音楽について悩んでいたゴダールは、メルヴィルに相談し、フランスのジャズ・ピアニストであるマルシャル・ソラルを紹介され、あの伝説的なテーマ曲が生まれた。尚、メルヴィルは作家、ジャン・パルヴュレスコ役で出演している。

[15:00-]

アスファルト・ジャングル
Quand la ville dort

© DR

［アメリカ／1950年／112分／デジタル／モノクロ／日本語字幕］
監督：ジョン・ヒューストン
出演：サム・ジャフェ、スターリング・ヘイドン、マーク・ローレンス、ルイス・カルハーン、マリリン・モンロー

西北部のある都市。刑務所から出所したばかりのドクは、賭博業者のコビーを訪れ、宝石泥棒の計画を語る。ふたりは暗黒街のボスであるエメリックの元を訪れ、協力の約束を取り付ける。ドクの指揮の下、首尾よく金庫を破り宝石を盗む事に成功するが…。メルヴィルが最も愛する犯罪映画の一本であり、『賭博師ボブ』以降、作品中でことあるごとに本作へのオマージュを示している。本作はメルヴィルだけではなく、『男の争い』（55）、『現金に体を張れ』（56）、『賭博荒し』（59）など、その後の強盗物に多大な影響を与えている。冒頭から悔恨の雰囲気がそこかしこに漂い、それぞれの人物が後戻りできない下落への道を進んでいき、「チェーホフ的フィルム・ノワール」とも評される。
「（私の計算によると、）警官と犯罪者の関係にはドラマとして可能な19のヴァリエーションがあり、その19個の全てをジョン・ヒューストンの傑作『アスファルト・ジャングル』に見る事ができる」――ジャン=ピエール・メルヴィル

[17:30-]

蛇の道
Serpent's Path

© KADOKAWA 1997

［日本／**1998**年／**85**分／**35**ミリ／カラー］
監督：黒沢清
出演：哀川翔、香川照之、柳ユーレイ、下元史朗、翁華栄

まだ幼い娘を誘拐され、殺された宮下は、自らの手で犯人に復讐することを誓う。調べを進めるうち、謎の男・新島が宮下の復讐に手を貸すようになる。組織の幹部・大槻を拉致し強引に口を割らすと、組長・檜山の名を挙げた。宮下はかつて檜山の下で働いていたが、はたして本当に犯人は檜山なのか？さらに新島はなぜ宮下を助けるのか？元来は、「復讐 THE REVENGE 運命の訪問者」「～消えない傷痕」に続く「復讐」シリーズの第3弾として企画構想されたVシネマ。その後、紆余曲折を経て、「CURE」を間に挟んで、「蜘蛛の瞳」とほぼ同時に2本撮りされた。本作で黒沢との9本目のVシネマ主演の哀川翔が謎に包まれながら底なしの孤独を背負う男を見事に演じきり、黒沢作品初出演の香川照之、柳ユーレイが新たな魅力を発揮している。脚本は高橋洋、撮影はたむらまさき。

「（セルジオ・）レオーネが西部劇で成し遂げたことを、メルヴィルは犯罪映画で成し遂げた」
――クエンティン・タランティーノ

「メルヴィルは映画産業の流通機構と制約の埒外で初期の作品を生み出し、ヌーヴェル・ヴァーグの頼れる父親となる。だがすぐにこのムーヴェメントから一線を画し、フィルム・ノワールの形式主義者として、その美を追求してゆく。『『いぬ』、『サムライ』、『仁義』、そして『リスボン特急』、メルヴィルはすべての要素において、他者の介入を許さない独自の世界を創造してみせる。その世界において時間は膨張し、刑事とギャングたちのアクションは、男たちの秘密めいた儀式へと変容するのだ」
――ジャン=フランソワ・ロジェ（シネマテーク・フランセーズ プログラム・ディレクター）

2017.11.5（日） dimanche 5 novembre 2017

[13:00-]

冷たい雨に撃て、約束の銃弾を
Vengeance

© DR

［フランス=香港／**2009**年／**109**分／カラー／**35**ミリ／日本語字幕］
監督：ジョニー・トー
出演：ジョニー・アリディ、シルヴィー・テステュー、アンソニー・ウォン、ラム・カートン

雨のマカオに響く銃声が穏やかに暮らす家族の日常を惨劇へと変えた…。奇跡的に生き残った娘の元をフランスでレストランを営む父が尋ねてくる。かつて腕利きの殺し屋だった父に変わり果てた姿の娘が望むのは愛する家族の復讐だった。しかし殺し屋時代に受けた頭部への弾丸が父コステロの記憶を徐々に蝕んでいき…。フランスの国民的ロックスター、ジョニー・アリディが凄腕の殺し屋だった過去を持つフランク・コステロを熱演。
「メルヴィルは香港のアクション映画に多大なる影響を与えている。現代的なヒーローたち、ロマンチスム、そしてそのスタイル、メルヴィル映画の革新的な部分が香港映画に溶け込んでいる」――ジョニー・トー
「演出についての偉大な作品」――ジャン=マルク・ラランヌ（「レザンロキュプティーブル」）

[15:30-]

コードネームはメルヴィル
Sous le nom de Melville

© DR

［フランス／**2008**年／**76**分／カラー／デジタル／日本語字幕付］
監督：オリヴィエ・ボレール
出演：ジャン=ピエール・メルヴィル、ジョニー・トー、小林政広、ベルトラン・タヴェルニエ

ジョニー・トー、小林政広、フォルカー・シュレンドルフ、ベルトラン・タヴェルニエ、アンドレ・S・ラバルトをはじめとするインタビューとジャン=ピエール・メルヴィルの貴重な資料、そして彼の映画の一部をまじえたこのドキュメンタリーは、どのようにメルヴィルの作品が第二次世界大戦の経験の痕跡を持っているかということを示している。実際メルヴィルは8年間（1937～1945年）をフランス軍ですごし、その後フランスの独立軍に加わるため、軍を脱走し、スペインを通り抜けた。実際の名前は、ジャン=ピエール・グルンバックであったにもかかわらず、レジスタントに加わる際に「メルヴィル」の名前（ハーマン・メルヴィルへのオマージュとして）を名乗ることとし、生涯にわたってその名を名乗ることになる。こうしたことすべてが彼の映画への道のりを構成している。彼の作品の主題のみならず、その美学にも。

[17:30-]

国際シンポジウム
Table ronde

フランス本国以上に、アメリカ、日本を含むアジア映画に強い影響を与え、現在に至るまで世界中の映画ファン、映画人たちを魅了し続けるジャン=ピエール・メルヴィル。フランス、香港、日本からゲストを招き、その作品の魅力、映画史におけるその存在、現代性などについて語り合っていただきます。

登壇者 Participants

オリヴィエ・ボレール Olivier Bohler ジャン=ピエール・メルヴィル展企画者・映画監督
黒沢清 Kiyoshi Kurosawa 映画監督
ロジャー・ガルシア Roger Garcia 香港国際映画祭エグゼクティブ・ディレクター
伊藤洋司 Yoji Ito 中央大学／フランス文学、映画批評

司会

土田環 Tamaki Tsuchida 早稲田大学／映画学、表象文化論